

聖水飲ませて稼ぐ JK 第3編

登場人物

神山明日香(15)

都内の有名な女子校「表参道女子学園」に通う美人 JK、中学時代はクラスの男子全員に告白されるほどの美貌も持っていてクラス一番の美少女だ。

滝沢日菜子(15)

明日香の幼馴染。彼女にはとある秘密が。その秘密を知っているのは明日香だけ。

北村楓子(15)

二人の幼馴染。トイレでの会話を聞いて二人の秘密を知る。「隠し事はしない」の約束に従い日菜子が打ち明けこの世界に入りこんだ。

第1編・第2編の続きです。第1編・第2編をお読みでない方は購入の上お読みしてからのご購入をお勧めします。

第一章-1 ゴールデンウイーク 1日目 明日香

ピピッ！ピピピピピッ！

「ふああああ！おはよう・・・。」と明日香。

「まずはボトルにおしっこを済ませよう。」と明日香。

そして明日香は水筒を持つとトイレに入った

「販売用ボトルは200ml だからね。1本だとあふれちゃうのよ。」と明日香。

明日香は早速水筒をマ〇コにあてがうとおしっこが出てくるのを待った。

「あ・・・出る・・・。」と明日香。

シュイイジョボボボボボボジョボジョバババババババ

「やっぱり朝は出る量が多いわね。」と明日香。

ジョバババババババジョボボボボ・ジョ・ボボボ・・・チャポポポポ・・・チャポ・・・チャポ・・・ポタ・・・ポタポタ・・・。

「ふう！スッキリした。」と明日香。

そして明日香は自分の部屋に戻るとボトルにおしっこを移し替えた。

トクトクトクトク

「このぐらいか。まず1本。」と明日香。

まだおしっこは大量に残ってる。

トクトクトクトク

「2本目もできた。」と明日香。

まだ半分ほど残っている。

トクトクトクトク

「3本目もできた。4本目もいけるかな。」と明日香。

トクトクトクトク

「4本目できた。あと少しだけ残ってるわ。」と明日香。

そして4本のボトルに保温材を入れると蓋を閉めた。
「いつもこれが多すぎないと思うのよね。」と明日香。
残りのおしっこはトイレに捨てた
「おはよう。」と明日香。
「おはよう、今日は早いじゃない、今日の朝食は目玉焼きよ。」と明日香の母。
「え！？もっと塩分少ないのがいい。」と明日香。
「もう作っちゃったわよ。」と明日香の母。
「まあいいや。水飲んで調整するから。」と明日香。
「最近塩分をすごく気にしているけどどうして？」と母。
「健康のためよ。じゃあ行ってくるわね。」と明日香。

明日香は朝食を済ませると家を出た
「さあ、タイムカードを押すか。」と明日香。
タイムカードを押すなり最初のお客様が現れた。
「あら、もうきたわ。」と明日香。
そして明日香は表参道の聖水ビルに着いた。
「いらっしゃいませ。あ、神山様、お待ちしております。」と受付嬢。
「あの、これを納品したいんですけど。」と明日香。
「聖水ボトルの納品ですね。」と受付嬢。
「4本あります。」と明日香。
「かしこまりました。保温ショーケースで販売しますね。売れたら通知がいきます。」と受付嬢。
「神山様本日1度目のプレイはおトイレプレイですので2階にお上がりください。」と受付嬢。
「わかりました。」と明日香。

第一章-2 1人目のお客様 おトイレプレイ

1人目のお客様は30代の男性だった。
「いらっしゃいませ！お待ちしております。」と明日香。
「君可愛いね。高校何年生？」と男性。
「1年です。」と明日香。
「一番フレッシュな年じゃないか。これは期待できるぞ！」と男性。
「ありがとうございます！」と明日香。
「楽しみだな。」そう言いながら排水口に入る男性。
「スタートしてもいい？」と明日香。
「どうぞ。」と男性。
「わかりました。」と明日香。
そして明日香は一度部屋を出るともう一度入り和式便器に跨った。
「おお、何と美しいお股なんだ！」と男性。

「ありがとう！」と明日香。

「出るかな？」と男性。

「あ、出る。」と明日香。

お試し版はここまで。